



語り：時制現象・ナラティブ現在 2



サンフランシスコ州立大学／国立国語研究所

南 雅彦

小説に見られる時制現象

● 日英語の時制

- 日本語では時制選択の基準となる視点が**可動的**で、英語では基本的に**固定的**である。
- 日本語で書かれた小説やエッセイでは**ル形**と**タ形**が混在しても自然な場合が多いが、英語では小説でも時制混交は通常可能ではない。
- 「主語が介在しないことで(登場人物・主人公と)読者の視点の一体感も生まれやすい、すなわち、認知主体をいちいち言語化しなくていいので、**主体から見えた事態や感覚だけを表示することができる**読者が読みながら作り上げるイメージが(登場人物・主人公の)五感で捉えた**主観的世界と同化しやすい**」。(樋口・大橋 2004)

小説に見られる時制現象

- 江國 香織(2005)「サマーブランケット」(pp. 49-67)『泳ぐのに、安全でも適切でもありません』 集英社.

○きょうは波が**高い**。私は昼食のあとずっと、マイケル・ギルモアの小説を**読んでいた**。厚くて重い、でも興味深い小説だ。私が寝そべって本を読んでいるソファの足元で、マリウスは**眠っている**。古めかしい木製の側卓は、ゴミ置き場から拾ってきたものだ。あんまりいいものが捨ててあったので、びっくりして拾った。私は腕時計を**見た**。二時半。もうすぐ大森君が来ること**になっている**。(pp. 51-52)

The waves **are high** today. Since after lunch, I've been reading a novel by Mikhal Gilmore. It's a big heavy book but quite interesting. Marius **is sleeping** at the foot of the sofa where I lie reading. The old wooden side table is one I picked up from a dump. I brought it home surprised to find such a good piece just thrown away. I **looked** at my watch. Half past two. Omori **is supposed** to come over soon.

- きょうは波が**高い**。私は昼食のあとずっと、マイケル・ギルモアの小説を**読んでいた**。厚くて重い、でも興味深い小説だ。私が寝そべって本を読んでいるソファの足元で、マリウスは**眠っている**。古めかしい木製の側卓は、ゴミ置き場から拾ってきたものだ。あんまりいいものが捨ててあったので、びっくりして拾った。私は腕時計を**見た**。二時半。もうすぐ大森君が来ること**になっている**。(pp. 51-52)

小説に見られる時制現象

- 江國 香織(1996)「デューク」(pp. 11-19)『つめたいよるに』新潮社.
- デュークは、グレーの目をしたクリーム色のムク毛の犬で、プーリー種という牧羊犬**だった**。わが家に**やってきた**時には、まだ生まれたばかりの赤んぼうで、廊下を走ると手足がすべってぺたんとひらき、すーっとお腹で**すべってしまった**。それがかわいくて、名前を呼んでは何度も廊下を**走らせた**。(そのかっこうがモップに似ていると言って、みんな**笑った**。)たまご料理と、アイスクリームと、梨が大好物だった。五月生まれのせいか、デュークは初夏がよく**似合った**。新緑のころに散歩につれていくと、(⊙)匂やかな風に、毛をそよがせて**目をほそめる**。すぐにすねるたちで、すねた横顔はジェームス・ディーンに**似ていた**。音楽が好きで、私がピアノをひくと、いつもずくまって**聴いていた**。そうして、デュークはとても、キスが**うまかった**。(pp. 12-13)

小説に見られる時制現象

Duke **was** a sheepdog, a breed called Puli, with grey eyes and shaggy, cream-colored hair. The day he **came** to our house, he **was** still a fresh newborn pup. Running down the hallway, he **would flop** down on all fours, which **split** apart sideways. Eventually, he **would end** up swiftly sliding upon his stomach. The way it **happened was** so adorable that we **would call** his name just to make him run down the hallway over and over. (Everyone **laughed** because sliding down the hallway **made** him look like a mop). He **was** a dog who **loved** pears, ice cream, and any food that **had** eggs in it. Early summer **suit**ed Duke well, perhaps because he **was** born in May. When I **would take** him for a walk during early summer time when it **is** green everywhere, (he) **would squint** his eyes and **flutter** his hair to the scented breeze. He **had** a tendency to sulk easily. His sullen profile **looked** like James Dean. He **liked** music. When I **played** the piano, he **would always come** to my side and listen. Duke **was** a great kisser.

小説に見られる時制現象

- 江國 香織(1996)「デューク」(pp. 11-19)『つめたいよるに』新潮社.
- 十二月の、しかも朝っぱらからプールに入るような酔狂は、私たちのほか誰も**いなかった**。
おかげで、そのひろびろとしたプールを二人で**独占してしまえた**。少年はきびきびと準備体操をすませて、しなやかに水に**とびこんだ**。彼は、魚のようにじょうずに**泳いだ**。プールの人工的な青も、カルキの匂いも、反響する水音も、私にはとても**なつかしかった**。プールなど、いったい**何年ぶりだろう**。ゆっくり水に入ると、からだ**がゆらゆらして見える**。(pp. 15-16)

小説に見られる時制現象

- 江國 香織(1996)「デューク」(pp. 11-19)『つめたいよるに』新潮社.
 - 蚊のなくような涙声でようやく一言お礼を言って、私は座席にこしかけた。少年は私の前に立ち、私の泣き顔をじっと見ている。深い目の色だった。私は少年の視線にいすくめられて、なんだか動けないような気がした。そして、いつのまにか泣きやんでいった。(p. 14)

I barely managed to thank him in a scarcely audible voice and **took the seat**. **He stood in front of me and glanced at my sobbing face**. The color of his eyes **was deep**. I **was overpowered** by his glance and felt like I could barely move. I was unaware that I **had stopped crying**.

小説に見られる時制現象

- 江國 香織(1996)「デューク」(pp. 11-19)『つめたいよるに』新潮社.
 - デュークが死んで、悲しくて、息もできないほどだったのに、知らない男の子とお茶をのんで、プールに行って散歩をして、美術館をみて、落語を聴いて、私はいったい何をしているのだろう。(pp. 17-18)

Duke **had died**. I **was** so sad that I **could not even breathe**. And here I **was** having tea with a stranger, going to a pool, going for a walk, going to an art museum, and watching a comic storytelling performance. **What on earth was I doing?**

日本語教科書に見られる時制現象

- 『顔をなくしたふるさと』（『上級で学ぶ日本語』 p. 58）

迎いの車の中では、取引先の人たちが早速仕事の打ち合わせを**始めた**。

しかし、私は心ここにあらずで上の空。窓の外を流れるふるさとの景色を目にしてどこか**落ち着かない**。

「違う。何かが違う」という思いが頭を**離れない**。依頼された仕事を無事に終えた後もそのことが**気になってならない**。

それで、ここまで来たついでに古い友人を訪ねたいからと夕食の誘いを断り、一人で町を歩いてみようと思**い立った**。

心理的補足

日本語教科書に見られる時制現象

- 『顔をなくしたふるさと』（『上級で学ぶ日本語』 p. 58）

迎いの車の中では、取引先の人たちが早速仕事の打ち合わせを**始めた**。

しかし、私は心ここにあらずで上の空。窓の外を流れるふるさとの景色を目にしてどこか**落ち着かない**。

「違う。何かが違う」という思いが頭を**離れない**。依頼された仕事を無事に終えた後もそのことが**気になってならない**。

それで、ここまで来たついでに古い友人を訪ねたいからと夕食の誘いを断り、一人で町を歩いてみようと思**い立った**。

日本語教科書に見られる時制現象

- 『顔をなくしたふるさと』（『上級で学ぶ日本語』 p. 58）

湖で捕れた魚を、安くおいしく食べさせる食堂があったのを思い出し、とりあえずそこへ行ってみる**ことにした**。

懐かしい町並みを歩き、湖に架かる橋を渡って、腕白だったころの自分に戻って**みたい**。運が良ければ、橋の上から湖に沈む夕日が見える**かもしれない**。きっとふるさとは、昔と同じように私を迎えてくれるに**違いない**。昔ながらのふるさとに出会えば、心のもやもやも**はっきりするだろう**。

押さえようにも押さえ切れないふるさとへの思いを胸に、私は、少々の道のりも**気にせず歩き続けた**。

日本語教科書に見られる時制現象

- 『顔をなくしたふるさと』（『上級で学ぶ日本語』 p. 58）

湖で捕れた魚を、安くおいしく食べさせる食堂があったのを思い出し、とりあえずそこへ行ってみる**ことにした**。

懐かしい町並みを歩き、湖に架かる橋を渡って、腕白だったころの自分に戻って**みたい**。運が良ければ、橋の上から湖に沈む夕日が見える**かもしれない**。きっとふるさとは、昔と同じように私を迎えてくれるに**違いない**。昔ながらのふるさとに出会えば、心のもやもやも**はっきりするだろう**。

押さえようにも押さえ切れないふるさとへの思いを胸に、私は、少々の道のりも**気にせず歩き続けた**。